

## Blackboard@Tamagawa 活用事例

### 01 経営学部国際経営学科教授：稲垣 明博先生

#### 授業外の思考を確保させる活用

稲垣先生は、民法を専門分野にされています。私たちの命が芽生えてから終焉までの日々の生活における起こりうることに関する法律の情報「生活と法律」をはじめとして、「借地・借家制度の研究」「後継ぎ遺贈について」「人為的親子関係の創設」などの研究活動などに取り組まれています。また、教育活動においては、コア科目の総合科目群「生活と法律」・経営学部専門科目群「民法」「プロジェクトセミナー I,II」などを担当されています。

今回は、Blackboard@Tamagawa（以下 Bb）のアセスメント機能を活用し、大人数の授業でテストを行っている事例を中心に紹介いただきます。



#### 科目の実施規模と講義での Bb の活用

◆科目名：生活と法律（全学コア科目 250 名）  
民法（経営学部 48 名）

◆授業概要：両講座も日本の法制度を条文、判例、学説を使って講義する科目である。多くの法学部では法学系科目を Bb やパワーポイントによる講義をすること自体、多くはない。また、玉川大学経営学部や全学コア科目で詳細な判決文を読むことや諸学説の紹介は時間的にも適当ではない。そこで両講座とも、種々の法制度の趣旨や役割を理解することと新しい法制度の動きをみることで、大きな視野で法律を考えられるようになることを目標としている。

#### 基本構成

Bb ではその機能を最大限に使いこなす工夫をしている。コースメニューでは「アナウンス」「シラバス」「パワーポイント資料」「確認テスト」「ディスカッションボード」「私の成績」「教員情報」を設定している。コースデザインは自

由に変えられるので、学期ごとにボタンや色を変えることなどメニュー作成の遊びも用意されている。

#### ① 予習実施のための Bb

講義前に当日行う講義用パワーポイント資料を掲載している。それと同時にアナウンスで注意事項（用意するものなど）を明らかにしている。



図 1. 基本構成画面

#### ② 復習のための Bb

講義後に授業の理解度を自己判断できるようにするための確認テストを実施している。この

テストは10問から20問程度、正誤問題や多肢選択問題をランダム表示で出題している（1問2点）。これは、全員が同じ問題だと、よく考えずに友人間同士で同じ答えを入力することを防ぐために行っている。また、その答えに対するフィードバックを以前は正解、不正解と出していたが、問題が終わると簡単に正解、不正解が分かり、考えることや覚えることなく終わってしまうことが分かった。そこで、フィードバックは不正解のみ表示するようにしている。また得点もすぐには見えないように「私の成績」で表示できるようにしている。

確認テストは1回で終わらず、確認テストをまとめた問題を「中間テスト」で複数回出している。ただ、確認テストの問題が次第に増えていくことを防ぐため、「ランダム機能」を使っている。たとえば、200問たまったものから50問なり、一定の問題数をランダムに出し、さらに個々の学生には、問題を順序不同で出し、できるだけ手作りに近い出題を心掛けている。

確認テストの問題はコースのコピーで次学期以降も使えるので、問題作成の手間も省ける機能も付いているのはありがたい。

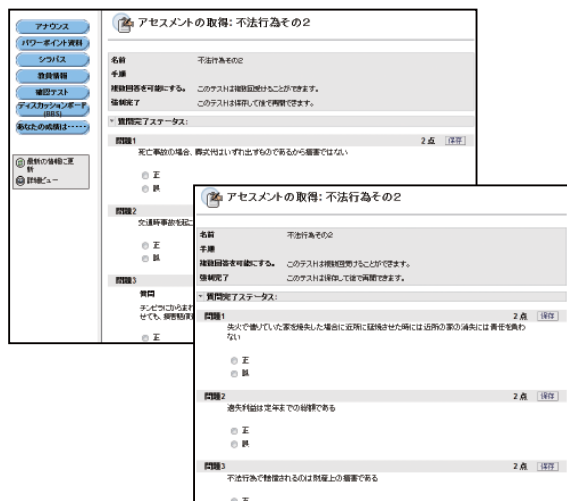


図2. ランダム・順序不同に設定している確認テスト

### ③成績センターの利用

確認テストは瞬時に成績センターへ送られ、個々の学生の点数と受験、未受験が一覧で表示されている。このため、最終アクセス日時と点数、受験・未受験を勘案して個人ごとにメールで学習を促している。

## Bb利用上の問題点

B bは遠隔授業のツールであり、他大学の通信教育で使われている。玉川大学では対面講義にB bを併用することで、欠席による講義の空白は生じないし、24時間、学生に自由な時間で学習できる特性があり、積極的に学生が利用することで相乗効果が期待できる。

ただ、対面講義でもそうであるように学生が学ぼうとする意欲がなければB bの効果は期待できない。学生が自主的にアクセスしなければ何の効用もない。また、アクセスして確認テストを解いたところでも、単に先に受験した学生の問題をコピーして正解を書き写すことも学習とはいえない。この弱点を補強するものとしてディスカッションボードで討論させることも考えられる。一学期、継続して学ぶ意欲をいかに保たせるかも問題であろう。そもそも、確認テストの点数のみで講義に対する学生の評価ができるか問題である。B bはあくまでも補助的講義ツールであり、予習専門、復習専門、短答式問題の練習専門、パワーポイントの資料配布の簡素化に限定すべきだとする見解もある。このような使い方も否定できない。しかし、B bは通信教育のような遠隔講義に最適で威力を発揮している（熊本大学大学院、信州大学等の事例から）。その特性を生かし通学生向きにB bをアレンジすることによって、通学生に特化したB bの存在をすべて否定できないと思われる。

### 今後のBb

通学生用のB bを考察する際、学生が考なければ解けない確認テストの内容、受験期間の厳格化、正誤問題以外、文字を書き入れる問題、任意に記述する方法がある。これらによって信頼できる成績評価ができると思われる。また、本人確認も問われてくる可能性がある。B bを利用する教員には、勉強しようとする意欲を持つ学生をいかにサポートできるかをさらに考える必要性が問われている。毎週、B bの資料の作成、問題の作成、フィードバックの作成などかなり時間がさかれる実態をみるとB b利用の教員に対するサポートも期待したい。

# 02

## ランダムテストの作成方法

B bのテスト機能は、同じテストを何度も繰り返し受けさせて、理解度を深めることができます。今回は、学生が多くの問題に取り組む際に有効な「ランダム機能」をご紹介します。

### ◆ テスト問題の並び順をランダムに表示

複数回受けられるように設定したテスト問題の並びを毎回変えて表示します。繰り返し受けて復習をさせたい場合に、正解の番号などを暗記してしまうことなく問題をよく考えて解答させることができます。

テストオプションの、「⑤並び順 (ランダム)」にチェックを入れるだけで設定できます。

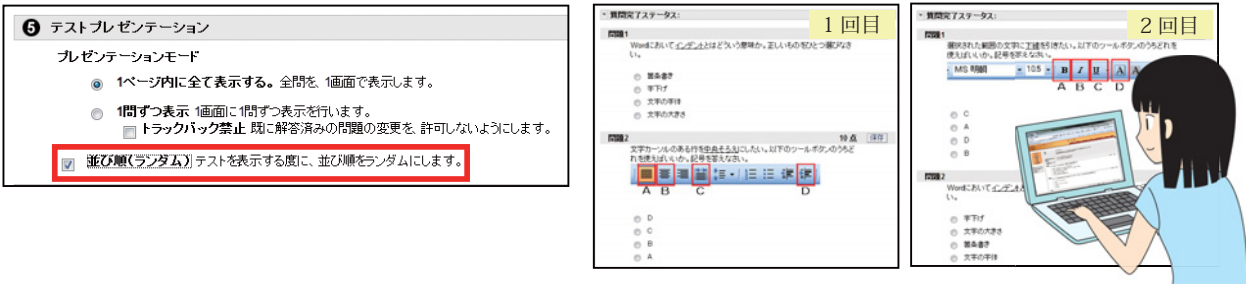


図 3. 並び順ランダム表示の設定とイメージ

### ◆ 複数の問題からランダムに表示

多めに作成した問題から、任意の問題数を選択して受講者別にランダムで表示します。

受けるたび違う問題が表示されるため、多くの問題に接することができるとともに、用意した問題が多ければ多いほど、学生同士で同じ問題が出題される確率は低くなることで、答えの教え合いが避けられます。また、作成済みのテストを1つのテストにまとめてランダムで出題することも出来るので、学期末の復習テストなどに有効です。

ランダムブロックは選択肢となる問題をあらかじめプールマネージャに作成しておき、テストマネージャで対象となる問題や出題数を設定します。ただし、ランダムという性格上、配点はすべての問題において統一され、正解率などの統計情報は提供されません。

テストのキャンバスから「ランダムブロック」をクリックすると、「ランダムブロックの追加または変更」の検索エリアにコース内で作成したテストの一覧が表示されます。該当するテストを選択し、表示する問題数と点数を設定します。

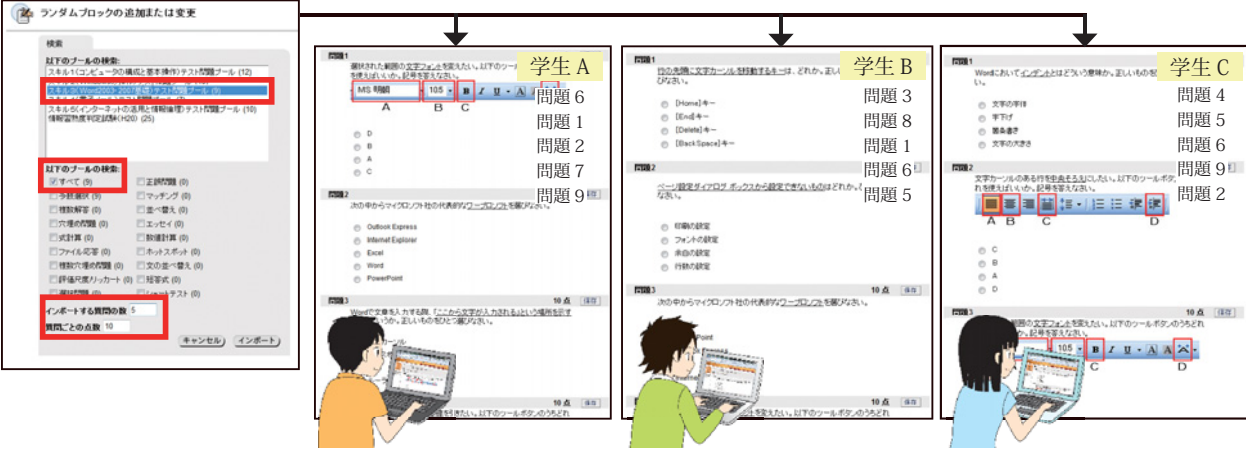


図 4. ランダムブロックの設定とイメージ (全問題数 9 問から 5 問をランダムに表示)

# Blackboard@Tamagawa サーバ運用スケジュール（お知らせ）

Blackboard@Tamagawa は、コンテンツ及びデータベースのアクセス処理最適化のために、年度ごとに分けて管理しております。「過去参照用サーバ」で、最大2年分のデータを確認することが可能です。データ移行作業は毎年、夏期休暇中の作業を予定しております。また、一斉休暇中の法定停電により Bb サーバにアクセスすることができない期間が発生いたします。ご協力のほどよろしくお願いいたします。詳細は、7月末にメールにてご連絡させていただきます。

- ◆夏期休暇期間中に毎年行う主な作業内容について
  - ・ 卒業生データ削除作業（卒業生は、4月1日以降はアクセスすることはできません。）
  - ・ 過去参照用サーバへのデータ移動 (<http://bb-oldv.tamagawa.ac.jp>)

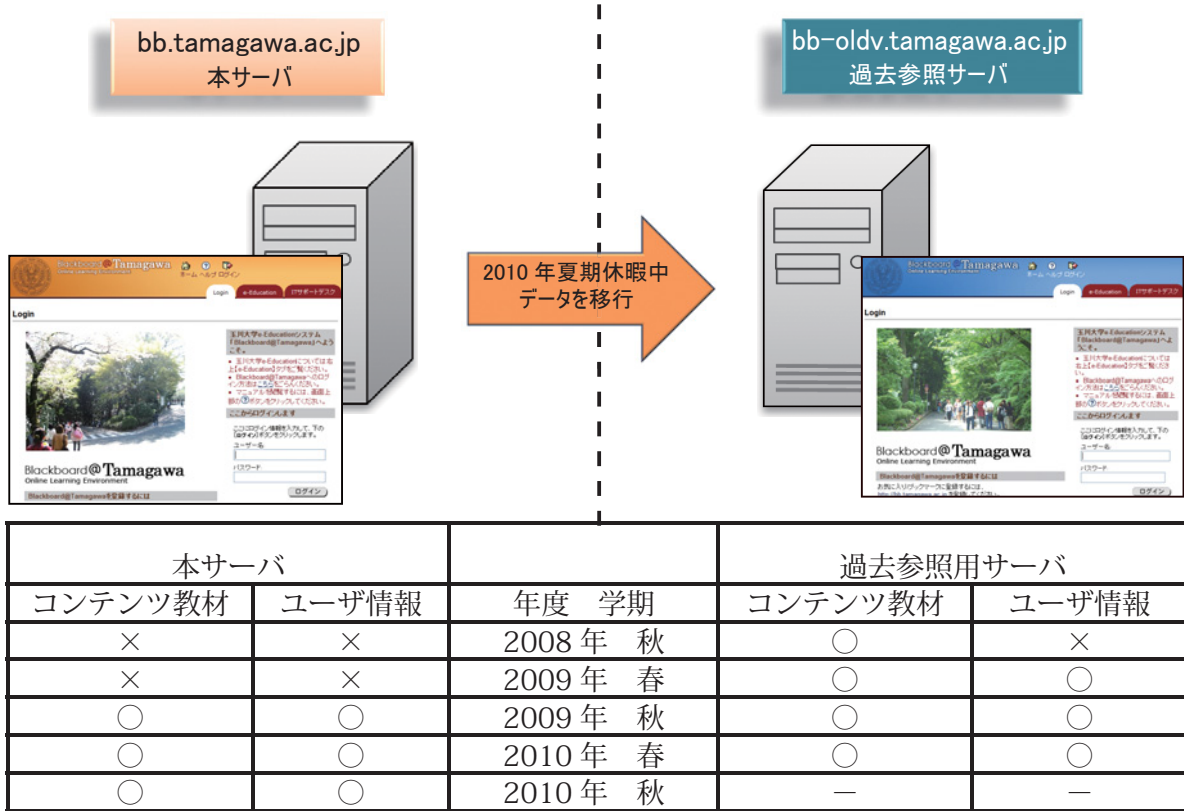


図 5. サーバデータ移行について (2010年8月時点)

**編集後記**

今回は、コア科目による受講生の多い授業において、授業の時間外に思考を促すため Bb を活用されている事例、講義の理解度を図るテストの作成について紹介いたしました。

夏期休暇期間中に、今学期の Bb コースを引き続きお使いになりたい方は、メディア教育推進室までご連絡くださるようお願いいたします。

秋学期も Blackboard@tamagawa をぜひご活用ください。

e-Education NewsLetter 2010 Vol.2  
2010年7月発行

玉川大学  
eエデュケーションセンター メディア教育推進室  
東京都町田市玉川学園 6-1-1  
Tel : 042-739-8820  
Fax : 042-739-8825  
eメール : [bbhelp@tamagawa.ac.jp](mailto:bbhelp@tamagawa.ac.jp)